

→  
117年前の大会と同様  
に金沢市の尾山神社前を  
スタートする参加者



## 明治から令和へ

### ペダルこぐ

#### 自転車大競走 再現

北國新聞創刊130年記念「自転車大競走」は29日、金沢市の尾山神社を出発点に行われ、参加者15人がゴールの加賀、七尾を目指した。1906（明治39）年に北國新聞社が主催した北陸初の自転車ロードレースを再現する企画で、参加者は朝日が注ぐ中、「ツール・ド・ドーヴィー」と400人（同実行委・北國新聞社主催）の源流となった大会に思いをはせ、力強くペダルをこいだ。

石川県自転車競技連盟のメンバーを中心にして、60代が明治の走りを再現した。東西2コースが設けられ、内灘・宝達志水・羽咋・七尾をたどる東コース（片道69・4キロ）に5人、白山・小松・加賀を巡る西コース（片道49・7キロ）には10人が出走した。

ツール・ド・のとに参加

経験があり、本紙で「人生、妙なり」を連載するエッセイストで俳優の一青妙さんも西コースに挑んだ。

北國新聞社が主催した自転車大競走は明治39年10月14日に行われた。世界最高峰のレース「ツール・ド・フランス」が初めて開催されてから、わずか3年後のこと、北陸未曾有の壮挙」と伝えられた。

大会の歴史をつなぎ、1989（平成元）年に、能登半島を一周するツール・ド・のとが始まった。今年は回目となり、9月16～18日35日に行われる。

#### 金沢出発、加賀に能登に

130  
北國新聞  
創刊130年